

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071602348
法人名	医療法人 三井会
事業所名	グループホームくましる式番館
所在地	福岡県久留米市北野町石崎162-1
自己評価作成日	令和4年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	令和4年2月28日	評価結果確定日	令和4年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは筑後川流域で耳納連山を望み、四季を感じる事が出来る環境である。お宮掃除やさぎっちょなどの地域行事に参加したり、ホームの地域交流祭(夏祭り)や餅つき等の行事には、子供会や老人会の方々にも参加していただき、交流を図っている。災害時には、ご協力いただけるよう自治会や消防団の方々にもお願いし、訓練にも参加していただいている。入居後もかかりつけ医や協力医療機関と連携が図れており、早めの対応で安心感を提供できている。ご希望があれば、ホームで看取りを行なっている。認知症になられても最期までご本人らしく穏やかに過ごせる様支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所の近くには大きな河川があり、近年の大雨による水害被害を受けた地域も近いことから、災害に対する意識の高い事業所である。運営推進会議の場で協力要請をしたり、民生委員から力添えをしてもらったりして、避難訓練時に地域住民と職員と一緒に運搬を体験し、万が一の時にも利用者が安心して避難できる体制を整えている。また、母体が医療機関であることもあり、利用者が必要とする医療支援を受けられるよう、かかりつけ医との情報共有体制も充実している。事業所全体で利用者が自分らしく過ごすことのできる環境を整えようと取り組んでおり、利用者と接する際にどう対応してよいか悩んだら、もしも自分や家族だったなら、と目線を変えて考え、利用者や家族に寄り添った支援となるよう心掛けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「皆さんとの絆」は、利用者やご家族だけでなく、地域の皆さんとの絆も深めていきたいとの思いをこめている。朝の申し送り時に理念の唱和を行っている。	事業所理念に込められている思いやこれまでの経緯などを新しく入職する職員に必ず説明している。理念を毎朝唱和し、意識付けを重ねて、職員の理念への理解度を高めたいけるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入しており、回覧板も回ってきている。地域の公民館やお宮の掃除、総会などにも参加している。コロナ禍の前は、ホーム行事のお祭りや餅つき等にも地域の方々にご参加いただいていた。	運営推進会議の場を活用して地域の状況を尋ね、樹木の剪定などの地域の困りごとに事業所として協力している。地域とは密に交流を図っており、幼稚園や高等学校からの訪問や実習の受け入れ、介護教室で認知症についての話をしたこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護者教室等で認知症についてお話ししたり、地域の支えあい推進会議のメンバーとして地域の相談をお受けしていた。運営推進会議でもホームの取組みを報告したり、地域の困りごとをお聞きしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政や包括職員、民生委員や自治会長、ご家族等に参加いただき、状況報告やご意見を頂いている。頂いたご意見は、申し送りや会議等で職員に伝えている。	事業所での行事や利用者の状況、ヒヤリハット事例などを報告し、参加者と情報共有している。グループホームがどのようなところなのか、参加者の理解も深まっている。地域に住む認知症の方への対応についてアドバイスをしたこともある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、運営状況の報告や相談を行っている。久留米市主催の研修会や事業者協議会においてもすぐに相談できる関係作りに努めている。	コロナ禍以前は顔を合わせる機会をより多くするため、事故報告書や提出書類は窓口まで持参し、連絡を密にとるよう心掛けていた。感染対策のため今は見合わせているが、これまでの取り組みにより行政担当者との関係性は継続できている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会やホーム会議をとおして、どういう事が身体拘束になのか、そしてその弊害について話をしている。夜間のみ防犯のため施錠しているが、昼間は自由に入出入りできるようにしている。	ZOOMを活用するなどして外部研修に参加し、身体拘束による弊害を全職員がきちんと理解できるよう事業所全体で取り組んでいる。言葉遣いや口調など、ついしてしまいがちな心理的拘束には一呼吸置いたり、他の職員と入れ替わったりして、職員同士が協力し合い、工夫しながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内介護事業所の合同勉強会の中で、必ず年1回はテーマとして取り上げている。外部研修にも積極的に参加し、参加した職員は他の職員へ伝達している。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回は、勉強会を行っている。職員は詳しい説明までは出来ないが、こういう制度があることや相談窓口をお伝えできるようにしている。外部研修にも参加している。	権利擁護に関する制度は専門性が高く、詳しい内容まで全ての職員が説明できる段階には至っていない。実際に活用している利用者の事例を通して、どのような方に必要な制度なのかを勉強会で周知し、相談時にすぐに詳しい職員に引き継げるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時だけでなく入居後も状態報告だけでなく積極的に声かけを行っている。改まってよりも何気ない会話の中からご本人やご家族の不安や要望等を汲み取るよう努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍以前は毎月、介護相談員の方が来られ、利用者の声を聞かれていた。ご家族へは、面会時に全職員がご意見やご要望をお聞きする様努めている。直接言いづらい事は、行政機関窓口へ申し出てくださいようお伝えしている。	事業所への訪問制限を設けていた時期もあり、家族と直接顔を合わせて話をする機会はコロナ禍以前に比べると少なくなっている。利用者の状況について電話で報告する時やWEBでの面会時に提案などがないかを必ず聞くようにしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議や勤務時間中に管理者が意見や要望を聞くようにしている。話しやすい雰囲気作りを心掛け、職員の意見は、否定せずに聞くようにしている。	職員からの意見や提案は法人の会議で検討し、反映できるものには積極的に取り組んでいる。実際に休憩時間の長さを見直したことで月の休みの日数が増え、職員の働きやすい環境作りにつながっている。	管理者と職員の関係は良好で、業務改善につながる提案などを言い出しやすい雰囲気を作られている。今後もこの関係性を継続して、職員の意見を前向きに検討、反映させ、介護支援サービスのより一層の充実に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回全職員がスキルアップシートを作成し、それをもとに面談を行なっている。普段と違う様子が見られる時には個別に話を聞いている。休みはほぼ希望どおり入れており、急な勤務変更にも対応している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	グループホームは、家庭的な生活の場なので、年齢や性別、資格や経験にとらわれず幅広く採用している。趣味や特技をホーム内外で生かして頂いている。	幅広い年代、様々な経歴を持つ職員が勤務し、介護職の経験を持つ職員がレクリエーション担当をするなど、それぞれの特技を活かしている。管理者は職員が生き生きと働けるように特技や適性を気にかけて、法人内の他事業所への異動を提案するなどしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権の意識付けの為、内部研修を行っている。外部研修もチラシ等を回覧し、希望者については出来るだけ参加できるように勤務調整をしている。	外部研修に参加した職員が伝達講習を行うなどして、人権教育に励んでいる。利用者を敬う気持ちを常に持ち、こどものように接したり、命令的な口調で話しかけたりしないよう心掛け、支援に取り組んでいる。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での新人研修や接遇、感染症等の研修に参加している。介護事業所でも合同勉強会を行っている。外部研修にもZOOMを使用して参加している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護事業者協議会の研修や交流会、久留米市の研修会などに参加し、質の向上に努めている。コロナ感染の状況に応じて電話やZOOMなどで情報交換などを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みの際には、ご家族だけでなくできるだけご本人もご見学をして頂くようお願いしている。些細なことでも心配事等を話していただき、どういう生活を送りたいかお聞きし、ホームとして出来ることをお伝えしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族が心配されている事や思いを丁寧に聞きし、少しでも安心してご入居いただけるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族からだけでなく、関係機関からも情報収集し、ホーム内で話し合いをして支援方法を決めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬う気持ちを持って接する様心がけている。洗濯物など出来ることは一緒に行ったり、野菜づくりや漬物漬けなどは教えていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	人生の先輩としての気持ちを忘れず接する様にしている。出来ることは、一緒に行ったり、教えていただいている。また、ご家族にもご本人の出来ることや役割等をお伝えし、共有している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も地域行事に参加したり、買い物に行ったり、病院受診の際には、知り合いの方とお話されたりしている。ホームに以前、担当されていた民生委員や友人も訪ねて来られている。	電話や手紙、職員が送迎するなどして、馴染みの人との関係性が途切れないよう支援している。コロナ禍により規模の縮小や延期などもあったが、感染状況が落ち着いたタイミングで段階的に支援内容を拡充させており、柔軟な対応ができています。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	隣のユニットへ行かれて会話したり、気のあう方同士で楽しく過ごされている。利用者同士だけで難しい場合は、職員が間に入っている。出来る方が出来ない部分を助けられている。		
24		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、ご家族がホームに来られ思い出話をされている。退居された方からご近所や知人の方の相談をお受けする事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族からご希望等をお聞きしている。意思表示が困難な方は、表情や言動で汲み取っている。	家族からヒアリングした利用者のこれまでの生活などもヒントにしながら、言葉だけでなく仕草や表情なども加味して、利用者の思いや意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からこれまでの生活歴をお聞きしている。関係機関やこれまで生活されていた近所の方等からも情報を頂いている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活チェック表を活用し、排泄や食事の状況を把握している。ケース記録に日中、夜間の様子を記入し、全職員で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人には、普段の会話の中で聞きとりをしたり、表情等から少しでも汲み取って反映するようしている。ご家族からは面会時に必ず要望等をお聞きしている。毎月カンファレンスを行い、介護計画を作成している。	介護計画は定期的に見直し、状態が変化して必要とするサービス内容が介護計画と解離した際には改めて作成している。利用者の状況や希望を踏まえた支援の方針となるよう、家族、管理者、看護師などの関係者で話し合っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者毎にケース記録や生活チェック表を記入している。気になることや変化があれば申し送りノートに細かく記入し全職員が必ず目を通すようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望をお聞きし、話し合いをしながら支援している。病院受診やご自宅への送迎も行っている。ご家族との外出もご希望があれば職員も一緒に行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の生活歴等をご家族や関係機関等から聞き取りし、利用されていたお店や場所を把握するよう努めており、馴染みのお店等に行き物に行かれています。また、入居前に関わられていた民生委員さんも訪問されている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医や緊急時の医療機関の確認を行っている。それまで診て頂いている主治医に継続して診ていただき、細かいことでも報告し、指示をもらって対応している。協力医療機関との連携も図っている。	利用者の半数以上が入居後もこれまで診てもらっていた主治医をかかりつけ医としている。状況が変化した際には主治医、家族と相談し、協力医療機関とも連携しながら利用者が適切な医療を受けられるように支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームには、看護職員がおり、体調管理を行っている。主治医へは些細な変化も報告や相談を行い、指示をもらって対応している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は、ご本人やご家族が不安になられないよう病院と連携をとっている。入院時は、面会に行ったり、洗濯物もホームで行っている。病院のカンファレンスにも必ず参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族のご希望を聞きながら、主治医や訪問看護等と連携をとって、終末期ケアを行っている。看取り指針を作成し、同意書をとっている。穏やかにご本人らしく最期を迎えられるよう支援している。	利用者本人や家族には、まずは入居時に終末期の希望や考えなどを聞き、状態変化時には主治医を交えて、時間をかけて説明、意向を確認している。看取り介護の経験も少なくなく、主治医や訪問看護師などの関係者との連携体制もきちんと整備されている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルを作成し、法人で取り組んでいる普通救命講習を受講している。急変時には、主治医や関連病院と連絡をとり対応している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルやBCPを作成している。消防・防災訓練は年2回行っており、地域の消防団や民生委員の方々も参加して頂いている。勉強会も定期的に行っている。	水害の多い地域に立地していることもあり、ハザードマップを掲示し、年2回実施している防災訓練の中で利用者も交えて避難誘導をして、利用者と職員が安全に避難するための方法を全職員に周知できるように取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の意思を大切にされた支援を心掛けている。言葉遣いや声のトーン等に気を配り、親しみが慣れあいにならないように気をつけている。トイレや更衣の際には、必ずドアをしめたり、声かけしてから介助するようにしている。	長い経験を積んできた人生の先輩であることを念頭に置いて、利用者と接するよう心掛けている。指示的な声かけとなっていないか、職員は各自で振り返り、管理職会議やホーム会議で気になる点などを話し合っており、利用者尊重した支援の実践に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい雰囲気作りを心掛けている。理解できるような言葉やコミュニケーション方法を用い、出来るだけ自己決定を促している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝、食事時間は、全員同じではなく、ご本人のそれまでの生活リズムに出来るだけ合わせている。買い物や散歩、外出も本人の希望に添って行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容には、特に気をつけている。普段着る服も、ご本人が選んで頂けるよう支援している。外出の際には、お気に入りの服を選ばれる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人が食べたい物や好きなものをお聞きしたり、旬の物をメニューに取り入れている。飲み物もお茶だけでなくジュースやコーヒー等選べるようにしている。	彩りを考えながら食器を選んだり、利用者の食べたいものを献立に取り入れたりしている。野菜の皮むきや味見、お盆拭きなどを利用者と一緒にしており、家庭的な雰囲気の中で楽しく食事をしていることが伺えた。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を確認している。食事形態や水分のトロミ等も状態に合わせて提供している。食事がすすまない時には、ご本人が食べたい物をお出ししている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行ない、清潔を保つようにしている。歯磨きが出来ない方は、口腔ウェットティッシュや洗口液を使用している。義歯は週に2回洗浄剤に漬けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自分で意思表示は出来ない方も動きやしぐさを見逃さないようにしたり、排泄チェック表により排泄リズムを確認し、出来るだけトイレ誘導を行っている。	利用者本人から申し出があったときはすぐに対応して、失敗を減らし、排泄の自立に向けた支援に努めている。トイレや居室内でのオムツ交換時には扉を閉め、見守りが必要な場合も周囲の状況を見ながら対応するなど、羞恥心に配慮している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により排便状況を確認している。出来るだけ薬を使用しないよう腹部マッサージを行ったり、食事に食物繊維を含む食べ物やバナナや牛乳などを提供し、スムーズな排便ができるように努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入りたい時には隣のユニットでも入れるようにしている。拒否がある時は、時間をおいたり、他の職員に交代して声かけしている。	ユニット間で協力して、場所を提供し合ったり、職員を応援で配置したりして、入浴の時間帯や長さなどの利用者の好みに柔軟に対応している。脱衣所や浴室には暖房があり、衣服の脱ぎ着に時間のかかりやすい利用者でも快適に過ごすことができるように配慮している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・就寝、食事時間は特に決めず、その方の生活リズムに合わせている。昼間も眠い時には居室で休んでいただいたり、ホールでテレビを観たりと思いいい思いにゆっくり過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は看護職員が行っている。飲まれている薬の作用や副作用が誰もがわかるように処方箋を見られる様にしている。誤薬がないよう準備や服薬時、服薬後とトリプルチェックをしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日洗濯物干しや畳みをされている。誕生日には、職員の手作りケーキでお祝いしたり、おやつや食事は、嫌いな物等は他の物に変えてお出ししている。近くの畑にも一緒に行かれています。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物等個別の外出の希望があれば対応している。ご家族との外出についてもご家族だけでは難しい場合は、ホームより送迎している。地域行事にも参加している。	感染対策を徹底した上でドライブや飲食を伴わない場所、自宅などへの外出支援を行っている。日頃からベランダに洗濯物を干したり、玄関先をホウキで掃除したり、近所を散歩したりして、外気を感じる機会を設けて気分転換を図っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事で安心される方は、小額のお金を持たれている。買い物は、職員と一緒に出かけられ自分で支払いをされている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話されたい時には、番号を押してかけられる様にしている。手紙も年賀状等ご自分で書ける方は書いて頂き、書けない方は職員が代筆している。贈り物を頂いた時等は、送り主へお礼の電話を入れられている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには、季節の飾りをしたり、ソファを置いてゆっくり過ごせるようにしている。温湿度計を置いて管理している。光は、カーテンなどで調節し、匂いについては、こもらないよう換気には特に気をつけている。	日課などを決めず、利用者が思い思いにその日の気分でゆっくりと過ごすことができるようにソファなどの配置を工夫している。特に換気には気を配っており、感染対策とともに匂いがこもらないように定期的に行うようにしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、ソファを置いてゆっくり過ごせるようにしている。入居者同士会話したり、テレビを観たり新聞を読んだりして過ごされている。一人になりたい時には、別のソファや椅子へ移動されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご本人やご家族にそれまで過ごされていたお部屋の配置をお聞きして、出来るだけ近い環境を作るようにしている。馴染みの物をお持ちいただくようお願いしている。	電動ベットやタンス、エアコンは居室内に備え付けられており、使用料の徴収もないため、使い慣れた布団や思い出の写真などの身の回りのものだけが持ち込まれている。車椅子の利用者でも居室を自由に移動できる広々とした空間が確保できている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、廊下、居室等全てバリアフリーになっている。また、廊下には手すりを設置しており、安全に移動できるようにしている。トイレや浴室は、わかりやすいように大きく表示している。		